

発達障害傾向の児童の捉え方

# 03 発達障害のある子どもへの対応は？

担任経験2年目・女性

持ち上りの学級を担任しています。2年生になり少し子どもたちも落ち着いて授業ができるようになりましたが、他の先生から、「あの子は発達障害の傾向がありそうですね。」といわれる子どもが何人かいます。どう捉えたらよいか困っています。



**A** まず、対象児童の特性を理解することから始めよう！

特定のことにこだわりが強かったり、多動性や衝動性の傾向が強かったりするために、集団に適応しにくい子どもたちの特性を理解し、必要な支援をして全ての子どもたちが生き生きと学級生活を送る環境を整えましょう。

戦略の構造 /

通常学級の現状

- 学級には発達障害のある子どもやその傾向が強い子どもがいる。
- 学級担任には、一人ひとりの障害特性に応じた指導・支援が求められている。

支援を必要とする子どもたちの思い

自分は頑張っているつもりなのに、学習や友達関係がうまくいかない。



どうして叱られることが多いのか、友達から嫌がられているか分からず、もやもやしている。



自分はみんなと違うのかと思いき、どんどん自信がなくなっていく。みんなと楽しく学校生活を送りたい。



適切な支援ができる担任

発達障害やその傾向についての理解を深め、このような傾向の子どもの特性を理解している。



校内体制で支援していく個別計画を立て、必要な指導・支援を工夫している。



保護者と情報を共有し、その願いを受け止め、協力体制をつくっている。



発達障害のある子どもも、そうでない子どもも多様性を認め合って、支えあって楽しく生活する学級

## 発達障害のある子どもへの対応のポイント

💡 支援を必要とする子どもの理解を深める

「多動性・衝動性が強い」という特性の子どもは、離席が多いことや集中に欠けることなどから、学習参画できず、友達とのトラブルも増える。このような言動を頭ごなしに叱っても効果はない。何度も叱られる子どもとともに、その様子を日々目にする他の子どもたちに好ましい人間関係や集団づくりは難しい。発達障害のある子どもへの対応スキルは、今、担任必須のものとして自覚し、学習障害、自閉症スペクトラム等への理解と支援方法の習得に努めたい。

💡 多様性を認める集団づくり

ワーキングメモリー(作業記憶、動作記憶)が低い子どもは、みんなと同じようなスピードで板書をノートに映すことが苦手な場合が多い。タブレット端末で板書を画像として撮り、帰宅してからノートを完成させるなど、合理的配慮の一つだが、この配慮を他の子どもたちが「ずるい」と思わない学級づくりをしたい。それには、障害理解の視点から自己理解と他者理解を深め、多様性を認め合い、支えあうことの必要感を共有する体験活動を重視したい。

### 発達障害やその傾向のある子どもの特性の把握

1 発達障害の典型的な状態を表すチェックリストを活用しながら、子どもの課題を把握する。

**注意** 診断をするわけではないので、状態が一致したからといって必ずしも発達障害と決めつけない。

2 特徴的な行動の記録をとり、学年主任やコーディネーターとも相談して、特別支援教育校内委員会で報告する。他の教員がもつ情報を交流させ、行動の特性や傾向について整理し、支援の仕方等を検討する。

#### 発達障害傾向に気づくチェックポイント

- 授業中、椅子に座ってられない。
- 持ち物の管理が苦手。
- 集中を続けられない。
- 常に体が動いている。
- 衝動的、突発的に行動する。
- ひとりごとを言い続けることがある。
- 制止や注意が効かない。
- 学習で得意な分野と不得意な分野に大きな差がある。
- 話す、聞く、読む、書く、計算するなどの基礎的な力で著しく低いものがある。
- 急な予定変更を受け入れることができない。
- 友達との物理的な距離が近い。
- 「暗黙の了解」が分からない。
- 興味や関心を抱く範囲が狭く、特定のことにこだわりが強い。
- 年齢相応の言葉の理解や活用が遅れがある。
- 友達の言動への反応や関わりが乏しい。
- 友達との関係をつくりにくい。

### 保護者の思いを傾聴し、共に支援する関係づくり

#### 保護者との面談のタイミング(目安)

子どもの困り状況	すぐに電話	連絡帳で調整	面談や保護者会後
日々の集団生活で支障をきたしている。	友達とのトラブルや授業中の不都合など、本人の困り感の解消が急務。		
時々、集団行動に不適応なことがある。		学校での様子と家庭での様子を照合するため、情報を共有。	
潜在的に発達上の課題があると思われる。			学校での気になる様子を伝え、家庭の様子や考えをすり合わせる。